

奈良高専 図書館だより

No.10

記事

1. 100冊読破のすすめ
2. 本を買うということについて
3. 視聴覚教育について思うこと
4. 心に残った言葉
5. 昭和55年度利用統計
6. 新着図書案内

1981年9月 奈良工業高等専門学校 発行

100冊読破のすすめ

図書館委員長 小谷 稔

読まないと恥ずかしい

作家の北杜夫は、山と虫にあこがれて信州の旧制松本高校に入っただけあって、虫談義が格別おもしろい。なるほど彼は小学校三年生ぐらいから昆虫マニアになっていて、その関係でファーブルの「昆虫記」全20冊の文庫本を小学六年から中学一年までかけて読みおえていたのだ。その読書体験と昆虫採集の長い実地体験とがあれば虫談義がおもしろくないわけがない。その北杜夫の松本高校時代の読書の思い出にこんなものがある。彼の学校では落弟生がボスのような存在になっていて、何を読めとか、哲学用語なんか使って説教するとか、そういう一種の伝統のようなものがあったという。そのころ、倉田百三の「出家とその弟子」とか西田幾太郎の「善の研究」とか阿部次郎の「三太郎の日記」とかは、旧制高校生として読まなければならない本とされていたという。北杜夫はこれらの中のむずかしい本も「読まないと恥ずかしい」という気がして、無理して読んだという。そして手帳に、今月は何冊読

んだと書名を書きつけたりしたそうだ。金と食物の乏しい時代の青春であるが、その知的精神的レベルの高さはうらやましいほどで、ふと「よき時代」と錯覚しそうである。それから三十数年がたった今日、「〇〇ないと恥ずかしい」の「〇〇」には奈良高専の学生諸君は、どんな言葉を入れるであろうか。

本との出会い

青春は出会いの時期だといわれている。その意味は「出会い」というやさしい字面よりもっと重いもので「生涯を決定する」ような出会いをいう。極言すれば今日の平均的若者は、出会いを知らず、多くは「すれちがい」のように見える。出会いが全人的なものであるに対して、すれちがいは人格の一部分だけのものである。

本との出会いにしても例外ではない。抵抗のない軽

い読み物が好まれて、すれちがいの人の名を知らないように読み物も一時的な使い捨てである。本の楽しみは、運命的な出会いだと思ふ。「この私のために書かれた本」というものに巡り合った時である。青年期は自己、人間、社会を見直す時期で、それらに対して疑問も多いので、求める意欲が強ければ、ずしりとした手ごたえのある本と出会うわけである。

今春卒業したF君は、本校入学の時に百冊読破の目標を立てて、ついに目標を達成した。高専の五年間は長い、ぼんやり過ごすよりも何か一つ目標を具体的な形で掲げて努力せよ、というある教官の話が動機であった。F君はノートに記録をとっているの、後日その一部をコピーしたいと考えている。

また、今年の一年生の中には、入学以来まだ三か月ばかりで既に図書帯出票の借り出し冊数が一杯になって（1枚は56冊分）二枚目に入っている者が何人かいると図書係の人に聞いた。読み物にしても文庫本を携帯している学生の姿が以前よりも多く目につく。「図書館だより」の本号に掲載した読書の抜粋は、今回は四年生機械科の諸君のものであるが、中には名言集のたぐいから孫引きした安易な間に合わせもあるだろうが、まじめに本を読み心に残る言葉と出会った者もい

るにちがいない。断片的な言葉の抜粋から一歩進んで一冊の感想を短くとも書きつけるようになれば本物である。F君以下の例は「自分のために書かれた本」と出会うための長く苦しい、しかしすばらしい喜びをつかむための歩みなのである。

奈良高専100冊の試み

本が氾乱している今日、学生諸君に良書選択のめやすを示すことは年長者の義務である。北杜夫の高校時代には「落弟生」までが名著に心を向けた。彼は人間の落弟生ではなかったのである。ただ今回奈良高専推薦図書100選の企画は、旧制高校のエリート意識を満足させるようなものでなく、もっと親しみのもてるものになりたいと考えている。広く教職員の方々に基礎資料として推薦をいただき、世上の100選のたぐいも参考にして、今秋の読書週間の時に発表したいと考えている。高専は五年間で卒業できるが、一生続く人生学校を立派に卒業するために、良書という人間の知性と感性の宝庫に分け入る旅立ちをしてほしいと思う。

本を買うということについて

一般教科 講師 木村 倫幸

読書について、あるいは読後感などという題目は、このところ余り読書量もなく、従って感想もない私には向いていないので、ここでは、本を読むことについてではなく、少し違った面——買うことについて考えてみようと思う。

この三月のことであるが、春休み中に少しでも本の整理をしておこうと思い立ち、乱読・精読・積んどくなどした本をそれぞれ本棚に並べたり、箱詰めにしたりにしているうちに、面白いことに気が付いた。

私は、推理小説のファンで、その中でも謎解き中心のいわゆる本格派と称するものを、自分でもあきらめるくらい読んできたのであるが、どうもこの種の本を買う時期が決まっているのである。というのも購入の日付をその本にメモしておいたことから判明したのであるが、推理小説を集中的に買っているのは、中三、高三、学部の四年及びM二の時なのである。もちろんこれらの間の時期にこの種の本を買っていないかというと、多少は買っているが、しかし量的にはほとんど問題にならないくらいに少ない。

今上にあげた時期は、周知のように、受験等で最も時間的な余裕のない時期である。つまりその時期は、私自身の精神的な余裕もまた少なく、絶えず緊張を強

いられていた時でもあった、ということである。その時期に、いわば時間の浪費に思える小説を大量に買っているということは、現実の状況に対しての一種の息抜きとして、無意識的に、このような本が読みたいという私の欲求をあらわしていたということであろう。

同様に、他の様々な本についても見ていくと、それらを買った時期と私の精神的な姿勢・態度の間に、ある種の対応関係が存在しているようである。それは、いわばその時々私の精神的な姿勢を跡付けているように思われる。すなわち、精神的に苦しく負けかけている時には、知らず知らずのうちに、どうしても軽い内容の本を選ぶ傾向があり、これに対して意欲の充実している時には、難解な本に取組んでいるということである。もちろん、これは私個人の経験からの話であって、他の人々がすべてそうであるというものではない。しかし、今まで買った本を眺めてみることによって、ある程度、自分の過去の姿勢を把握することは可能ではないかと考える。

そして以上のことから、今度は逆に、本を買う場合自分が今から買おうとしている本は、現在の私のどのような姿勢をあらわしているのか、ということ自分を問いかけることができるのではないだろうか。すな

わち、その内容を検討することによって、自分の姿勢を理解して、自分を立て直す契機にすることができるのではないかということである。

たかが本一冊を買うのに、そこまで大げさに考えなくても自由に好きな本を買えばよいのではないか、という意見ももっともなものであるが、自由に好きな本を買うこと自体の背後には、先ほどの状況が作用しているものであり、そうであるならば自分の現在の姿勢を確認する行為のひとつとして本を買う方が、より積極

的な意味を持つのではないだろうか、と私には考えられる。

話が難しい方向に行ってしまったが、現実の忙しいだけの毎日の生活の中で、ともすれば見失いがちになる自分自身のあり方を、小さなことではあるが、本を買うという行為において確認し、そこから更に自己についての省察を深めていくこともまた可能なのだ、ということである。このようなことに気付くのも読書のひとつの成果であろうか。

視聴覚教育について思うこと

電気工学科 助教授 上田 勝彦

図書館委員会視聴覚部会の先生から視聴覚教育について何か書くように依頼がありました。授業で毎週小視聴覚教室を使用させて頂いていることでもあり、気軽に引き受けたものの、改めてこの欄で紹介する程、工夫を凝らした授業をしている訳でもなく、さて困ったと思ひ悩んだ揚句、教育という複雑な対象をどのように体系化し、分析していくかという観点から視聴覚教育法といわれる一つの教育方法の位置づけについて考えてみることにしました。したがって、この内容は本紙の読者の大部分を占める学生諸君には、直接関係ないのですが、一人の教師が日頃どんなことを考えているのか知って貰えば幸いです。

さて、我々教師は誰でも、より効率的な授業方法は何かと模索しています。しかし、教育という対象は教師と学生という人間の集団で成り立つものですから非常に複雑で捕え所がありません。このことが、自然科学などの着実な発達に比べて、教育に関する研究開発が遅れている原因と考えられます。このように複雑な対象を分析し、より効果的な教育の方法を開発していくためには、この複雑な対象を明確に分類、体系化した上で、それぞれの問題の解決を試みるべきです。このことに関しては、我が国の教育工学の先駆者の一人である宮脇一男氏が、教育の3Cなる考え方を提案しておられます。これは、教育という事象は下記の三つの要素から成り立っているというものです。すなわち、1) 情報伝達(Communication), 2) 情報処理(Computation), 3) 制御(Control)であります。第1のC、情報伝達は教師が学生に理解、記憶させたい情報をいかなる手段で効率良く伝達するかという問題、第2のC、情報処理は学生の頭の中で、記憶、思考、理解などがどのようなプロセスで行なわれているかという問題、第3のC、制御は教師がいかに効率的に被教育者(学生)を目標値(教育目標)に近づけるかという問題です。

さて、このような観点から視聴覚教育というものを

考えてみると、上記の第1のC、情報伝達に関して、より効率的な教育内容の伝達を目指して、各種の提示機器を導入した授業方法の総称であると言えます。すなわち、学生は教師と機械から情報を受け取り、これを処理し、この結果を再び教師に戻し、これらを制御することが効率的に逆行されていれば、教育は効率的に行なわれていると言えるでしょう。このように考えると、学校のような集団教育の場合、教師が黒板でチョークの紛にまみれて授業を行うという普通の講義形式は必ずしも効率的と言えず、また、詳細な図表の提示が必要な場合は、印刷物の配布という方法の他に、たとえばオーバーヘッド・プロジェクタ(O.H.P.)の利用が考えられるべきでありましょう。O.H.P.は言うまでもなく、資料作成が簡単、明るい部屋で手軽に使える、教師はいつも学生に対して話すことができるなど、利点の多いものです。さらに、提示教材を少し工夫すれば、相当時間的、質的に効率化が期待できるものですので、私もよく利用しています。

もちろん、機械を使ったからそれで事足りるというものではありません。前にも述べましたように3Cが十分効率良く機能しなければ、効率的な教育は期待できませんし、情報伝達の範疇で考えても、効率的な情報伝達が行なわれるためには、教育内容の構成が十分よく検討されていなければなりませんし、学生の質に応じた提示方法を考えなければなりません。このように教育の効率化のためには教育そのものが十分よく検討された上で視聴覚教育の具体的方法が決められるべきですが、本校の場合は、各種の機械がよく整備されている訳ですから、積極的に色々な分野で活用されて、その結果に基づいてさらに有効な教育方法の改善へと進めてゆくべきだと思います。

しかし、このような方向で広く活発に利用されるためには今後、解決されねばならない問題点がいくつかあります。まず第1は、使用したい機器がすぐに簡単に利用できるようになること。たとえば、O.H.P.の

ような簡単に使え、黒板に比べてその利点も多い機器はわざわざ視聴覚教室まで出向かなくても各教室で簡単に利用できるようなになれば、もっと広く使われるようになると思います。第2に、教材作成に負担がかからないような体制の確立が必要だと思ひます。ちょっとした教材作成にも相当時間と労力がかかりますので、現在黒板とチョークからなかなか抜け出せないと思ひます。さらに望むならば、第3に各種ライブラリの整

備拡充があります。

以上の諸点が解決されて、新しい、より有効な教育方法の開発を目指して広く、活発な試行が行なわれるようなになれば、学校全体がもっと活気に満ちてくるのではないのでしょうか。

以上、思いつくまま、色々書いてきましたが、紙面の都合もあり、言葉足らずの所もありますが、別の機会に譲るとして、これでこの稿を終ります。

心に残った言葉

— 抜粋ノートより — (1)

4 A、4 B

本を読んで、いい言葉だと思っても、忙しい時間の中で、すぐ忘れてしまうものです。その言葉を日記などに残しておく、いつの間にか、珠玉の名言集ができます。読み捨て時代に抗して抜粋ノートを作りましょう。これも貴い青春の足跡です。

以下は、4年生のそうした収穫の一部で、今回は、その(1)として4 A、4 Bのものを掲載します。

○どんなに幸福であろうとも、私は進歩のない状態を望まない。
アンドレ・ジイド「狭き門」

A 黒木裕昭

○世の中の人々がむとんじゃくだといってもそれを恥じてはならない。それは恥ずべきことじゃない。私たちはそのありがちのことがらの中からも人生の寂しさに深くぶつかってみることができる。小さなことが小さなことでない。大きなことが大きなことでない。それは心一つだ。

有島武郎「小さき者へ」

A 浦谷弘勝

○ただ目的だけを忙しく探し求める目には
さすらいの甘さはついに味わわれない
森も流れも
あらゆる途上で待っているいっさいの壮観も
閉ざされたままで。

ヘルマン・ヘッセの詩の一節

森村誠一「虚無の道標」

A 池崎 修

○堅い人情のきずなもまた不幸の中で結ばれる。人がある人と困難を共にし、互いに信義を示し合ったならば、何物にも破られぬ、まことの宝である真の友情が生まれるものである。

ヒルティ「幸福論」

人間なんて小さな生き物だ。それを平凡に生きていくのは、この世で毛嫌いされ、はいずりまわるゴキブリと同じじゃないか。命の続くかぎり思ったよう

に生きてやる。

稲田耕造「高校浪送記」

A 佐藤暢裕

○個性を認めるということは、同時に欠点を認めることであり、欠点を認めるということは、その欠点が長所になり得ると判断することである。

西堀栄三郎「夢を実現するために必要なこと」

幸せとは、それは他人のために生きることだ。

トルストイ

「二十歳の世代へ伝えたい」

A 上田 力

○いたるところを突破しようとする者は、どこも突破することができない。また、すべてを守ろうとする者は、何一つ守ることはできない。

アンドレ・モロワ「初めに行動があった」

A 山本 博

○現代においては、無限と対話する者こそが、科学の使命の中に人間の使命を自覚している唯一の人間なのである。

モーゲンソー「人間にとって科学とは何か」

A 安部繁徳

○たったひとりしかない自分を、たった一度しかない一生を、ほんとうに生かさなかったら、人間、生まれきたかいかないじゃないか。

山本有三「路傍の石」

A 石井清隆

○ここにいる僕とはなんだろう。

三田誠広「僕って何」

A 浜岡克行

○若い者は、女を欲求することと恋とを一つに見ている。女の運命をだいいちに気にするのが恋で、自分の欲望を満たそうとばかりするのが肉欲だ。

武者小路実篤「友情」

自信の強いことはいいことだが、他人の長所を認めないことで自信を無理につくろうとするのは醜い。

武者小路実篤「愛と死」

A 窪井康友

○戦争だけは、これはほんとうに人間ってものをダメにする。僕らが生きている根底の生きるということをとっばらってしまうことなんだから。

「朝日新聞」

A 太田洋一

○のう、おぬし、生きることはつらいものじゃが、生きておる方がなんぼよいことか。

田宮虎彦「足摺岬」

知識ではなく知恵について私たちは古代の人間たちの残した遺産にどれほどつけ加えるものを持っているか。

北 杜夫「あくびノート」

A 江原健司

○友情がうそのおかげで滅びることがあるように恋愛は本当のことから滅びることがある。

ボナール「友情論」

B 山田伸治

○たまり水よりも、ほとぼしる水こそ男である。

「空手バカー代」

B 西岡睦博

○わが愛する友よ、われわれが死ぬときには、われわれが生まれたときより世の中を少しなりともよくしていかうではないか。内村鑑三「後世への遺物」

B 町野匡紀

○カミソリになるな、カミソリは紙は切れても大木は切れない、斧になれ。森村誠一「不良社員群」

B 奥本雅英

○こう考えてみると優越感といい、劣等感といい、所詮は自分たちの感情の、それも自分でそれを認めたくないような極めていやらしい一部分を相手に投影して憎んでいるわけで……筒井康隆「優越感」

B 岡本裕志

○友と友の間の真実は、この世でいちばん誇るべき宝なのだ。

太宰治「走れメロス」

B 大塚克博

○私の心は、鋼板のようだ。ちょっとひっかいたくらいでは、なかなかあとが残らないが、その代わり、いったんあとがついたら、こんどは容易に消すことができない。吉野源三郎「エイブニリンカーン」

B 川村雅彦

○人間の目は、未来を、前を見るためにあるんだ。

週刊ジャンプ「G O シュート」

B 山村敏彦

「羅生門を読んで」

1 A 中島 勇

芥川龍之介の作品は、今までにいくつか読んだことがあります。そのほとんどは、暗い感じの作品で、読み終わった後も読者に不安な余韻を残すようなものばかりでした。この「羅生門」もその例にもれないものだったと思います。僕自身こういうミステリー的なものやSFが好きなので結構おもしろく読みました。龍之介の作品はこのほかに「地獄変」「奉教人の死」「鼻」「芋粥」「杜子春」「トロッコ」などを読みましたがどの作品にも、念を入れた組み立てと技巧が見られます。

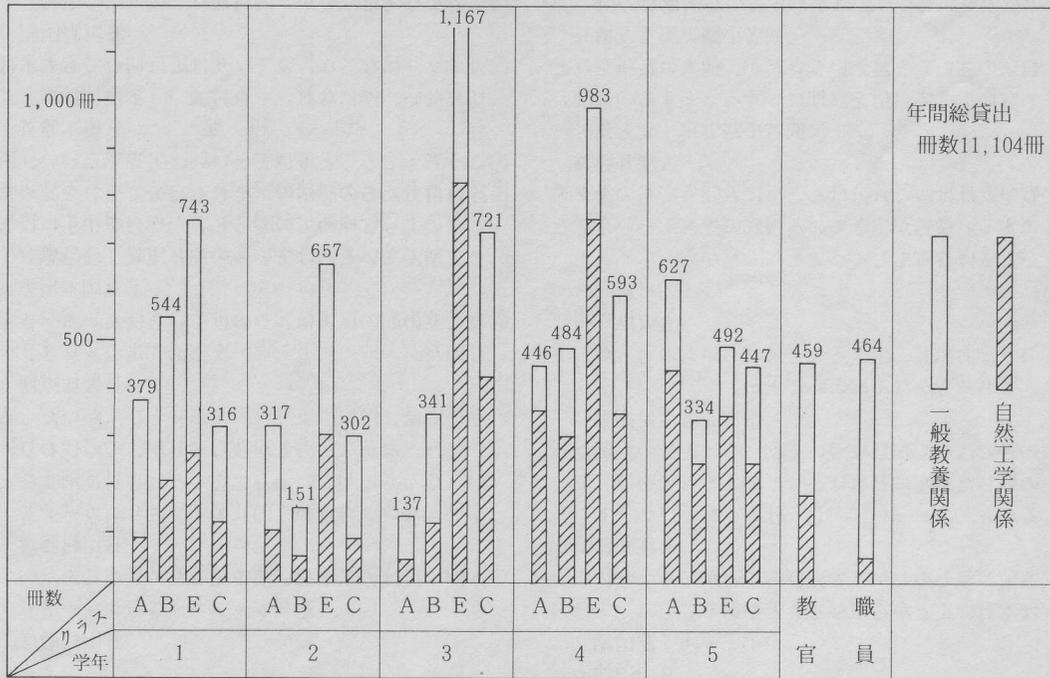
龍之介が自殺する時に近い作品にはまだ触れたことがありませんが、より一層暗さが濃くなっていると、僕は父から聞いたことがあります。母親が不幸な死に方をしたので、龍之介自身も「母のような死に方をするのではないか」という気持ちが心の底に強く存在し

て精神的に圧迫され、それが作品に影響したものと僕は考えます。

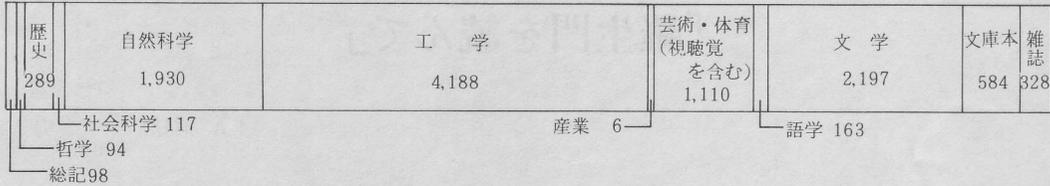
「羅生門」の最後の方、下人に着物をはぎ取られた老婆が下人の行方を恐ろしい形相でにらむところに、「外にはただ黒洞々たる夜があるばかりである。」とありますが、この作品で僕はこのところがいちばん好きです。なぜかしら、下人の不安な気持ちと、下人の暗い将来を暗示しているかのような感じで、何となくゾットとする気持ちになります。僕が思うには、この下人には、何か病的な不安定さがあるということです。自分の考えを持たず、状況の中で気分が変わりやすくしかも強くエゴイズムに動かされる性格が僕には恐ろしく感じられます。龍之介はそうした自分の、人間の不安定さをこの作品にたくしたと思います。

昭和55年度 図書館利用統計

クラス別貸出冊数

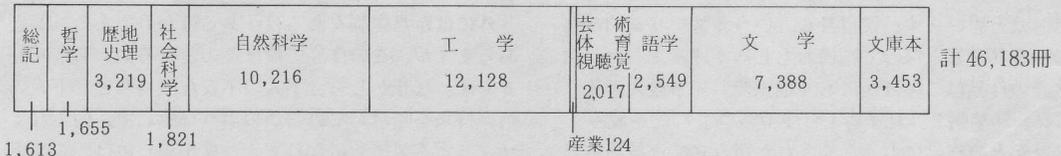


分類別貸出冊数



分類別蔵書数

昭和56年5月1日現在



昭和55年度の統計ができましたので掲載します。

「一億総活字離れ」と云う言葉を耳にしますが、幸いに本校学生は比較的良好に本を読んでいるようです。年間の貸出冊数11,000冊は、全国高専の平均約8,100冊を上廻っております。ただ、例年のことですがクラス別で大きな差があるのはなぜでしょうか？

この表を見て、少ないクラスは大いに発奮し、また多いクラスは更に多くするように皆さんで努力して下さい。

新着図書案内

< 総記 >

原色図解大事典	小学館
4 宇宙と科学	
6 日本の歴史	
11 総合大地図	
朝日年鑑 1881年版	朝日新聞社
日本の博物館	講談社
6 絢爛たる武家文化	
7 明治のたたずまい	
9 鉄道と帆船	
12 海に生きる	
13 産業の発達史	
世界大百科事典	平凡社
34 現代	
人類の知的遺産	講談社
69 魯迅 32 デカルト 46 ヘーゲル	
15 アウグスティヌス 73 ウイントゲンシュタイン	

< 哲学・宗教 >

日本思想大系	岩波書店	
22 中世政治社会思想		
世界の聖域	講談社	
3 デルフォイの神域		
13 聖山アトス		
禅の生死観	赤根祥一	れんが書房
ジョン、ロック研究	田中正司	未来社
時間とは何か	伏見康治	中央公論
新しい科学的精神	G.Bachelard	"

< 歴史・地理 >

図説日本文化の歴史	小学館	
11 明治		
日本の山河 天と地の旅	図書刊行会	
27 岐阜 32 富山 31 石川 26 静岡		
29 山梨		
シルクロード	NHK取材班	NHK
日本地名大辞典	福島県	角川書店
日本歴史地名大系	奈良県の地名	平凡社
全訳 世界の歴史教科書シリーズ 1~11	帝国書院	
イギリス インド フランス スペイン		
開発と農民社会	R.スタベンハーケゲン	岩波書店
中国の少数民族	松村一弥	毎日新聞
日本人の自伝 15		平凡社

< 社会科学 >

考える読書、第26回読書感想文	毎日新聞
(中学、高校の部 全国コンクール入選作品)	
あるインディアンの自伝 P.ラディン	思索社
世界の桃戦 J.Servan	小学館
教育学全集 全15巻	"
はじめての手話 田上隆司外	NHK
下町の民俗学 加太こうじ	PHP研究所
逆説の論理 会田雄次	"
私の同時代史 松本健一	第三文明社
家庭教育選集 桂 広介外	金子書房
読書感想文の書き方 松尾弥太郎	ポプラ社
被差別部落の形成と展開 三好昭一郎	福村出版
キャンパスの症状群 笠原 嘉外	
親は子に何を教えるべきか 外山滋比古	PHP研究社

< 自然科学 >

論文にみる日本の科学50年 青木和彦	岩波書店
朝倉化学講座 全21巻	朝倉書店
岩波講座現代化学	岩波書店
15 化学と情報 21 材料の化学	
8 化学反応とその機構 上	
ペニシリンに賭けた生涯 L.Bickel	佑学社
解法の手びき 数I 矢野健太郎	科学新興社
コスモス 全14巻	旺文社
色彩科学ハンドブック	東大出版会
問題解法微積分学辞典 笹部貞市郎	聖文社
" 三角法辞典 "	"
" 代数学辞典上下 "	"
化学モノグラフ 佐々木和夫	化学同人
結晶物理学 小川智哉	裳華房
化学の研究調査と文献 川村信一郎	南江堂
化学系学生物医学の文献調査表 笹本光雄	地人書館

< 技術・工学 >

日本の原子力技術	日刊工業新聞
切削、研削加工学 上・下 白井英治	共立出版
材料力学 上・中 湯浅亀一郎	コロナ社
" 上・下 中原一郎	養賢堂
機械工学実験 東京工大編	"
機械振動工学演習 西村正己	産業図書
自動制御例題演習 増淵正美	コロナ社

切削工学	岡本健二郎	コロナ社
”	会田俊夫外	”
精密測定	中野幸久	日刊工業
精密測定(2)	青木保雄	コロナ社
精密測定学	築添 正	養賢堂
マイコン応用開発技術の教育指導		
圧縮性流体の力学	生井武文	理工学社
化学機械の理論と計算	亀井三郎	産業図書
鉄鋼便覧 1. 基礎	鉄鋼協会	丸善
情報処理の数学	牧野郡治	森北出版
乱数の知識	脇本和昌	”
しゃぼん玉、その黒い膜の秘密		中央会論
中国の技術創造		”
工匠たちの知恵と工夫	西 和夫	彰国社
環境科学大事典		講談社
エネルギーの現状と未来	向坊 隆	三修社
技術の歴史	T.I.ウィリアムズ	筑摩書房
自動車の再発見	樋口健治	講談社
自動車工学全書 全21巻		山海堂
高温化学工学	化学工学協会編	丸善
解析デジタル回路	岡村勉夫	CQ出版
水力学	村田 暹	理工学社
公害用語事典	友野理平	オーム社
A/D P/A 変換回路の設計	長橋芳行	CQ出版
単位操作演習	藤田重文	科学技術社

< 芸 術 >

新潮古代美術館 (日本美術の完成)		新潮社
在外日本の至宝		毎日新聞
7 浮世絵	9 陶磁	
全集美術のなかの裸婦		集英社
4 神話 ニンフと妖精		
2 神話 ディアナと美神たち		
現代日本画家素描集		放送出版協会
18 吉岡堅二 中亜風景		
モーツァルト名曲全集		中央会論
最新名曲解説全集		音楽之友社
レコード百科	宮本英世	新光社
最新テニス百科		マガジン社
敵は我にあり	野村克也	サンケイ出版
ネバーギブアップ	長嶋茂雄	集英社

< 語 学 >

文章心得帖	鶴見俊輔	潮出版社
現代にほんご草紙	外山滋比古	PHP
文章術	多田道太郎	潮出版社
ホモ、ロクエンス	D.B.Fry	こびあん書房
文章作法	桑原武夫	潮出版社
国語慣用句大辞典	白石大二	東京堂出版
英和翻訳表現辞典	中村保男外	研究社

寄贈図書紹介

 * 昭和55年度、英語検定試験短大、高専の部の成
 * 績優秀校に選定され、賞品として豪華本「デラッ
 * クスギヤラリー8冊」を、日本英語検定協会から
 * 寄贈を受けました。

書 名	寄 贈 者
衛生通信技術	電気通信学会
奈良県機械工業協同組合	奈良県機械協同組合
二十周年記念誌	
sound creator	パイオニア(株)
明日の電気通信を考える	日本電信電話公社
高電圧工業	本校名誉教授今西周造
高専の化学	本校教授 石川光二
炎とともに	新日本製鉄(株)
石油化学工業20年史	石油化学工業協会
奈良県農業協同組合三十年史	奈良県農協中央会
科学論文をどう書くか	未武国弘
国際電気通信関係略語集	国際電信電話(株)
仮性近視と色盲治療	和同会
色盲治療の最前線'81	和同会
青年の主張録音集	NHK
日本の白書	内閣官房広報室
日本人の良心	村井 順

[図書係からのお知らせとお願い]

- 図書室に新聞架を設置
 本校図書館には新聞がなく、永らく迷惑をかけて
 いましたが、7月から次の3種の日刊紙を備え付け
 ましたのでご利用下さい。
 朝日新聞
 日刊工業新聞
 デイリー毎日
- 借りた本を期限内に返さない人が跡を絶ちません。
 ほかに借りたい人が迷惑をして待っています。必ず
 期限内に返して下さい。
- 運動、クラブ等で汚れた靴のまま入室しないで下
 さい。マットレスでよく拭いてから入室するように
 して下さい。